



コンクールきっかけに「好き」に気付く

幼い頃から、キラキラした女の子の絵や、その日の出来事を絵日記で描いていました。特に絵が好きという自覚はありませんでしたが、気付けば絵を描いていました。小学校に入り、夏休みの課題で絵を描くことがありました。コンクールで賞をもらうなどの経験を経て、「私、絵を描くのが好きかも」と気づきました。中学に入り、美術部に入学しました。30人ほどの部員が所属していました。顧問の先生の専門は絵画ではなく彫刻だったので、みんな独学で描いていました。

自分にできる表現方法が「絵」

高校はオープンスクールで美術の先生が熱心だったことに惹かれて、酒田西高等学校に進学しました。中学の美術部の先輩が高校で油絵を描いていてカッコいいと思ったことも決め手でした。

進路を選択するときに、このまま絵を描き続けるかどうかで一度立ち止まり、悩みました。デザインやアニメーションの世界にも興味を持っていました。進むべき道を決めかねていたこともありますが、世の中の出来事に対する自分の考えを、私は文章ではなく絵で表現したいと考えました。そのために幅広い知見を得たいと考え、総合大学の中の芸術文化学部のある富山大学を検討し、オープンキャンパスに参加しました。

デッサンの対策で身に付けた分析力

富山大学の入試では、デッサンを用いた入試方法で受験しました。高校の美術系のコースでデッサンの対策をしました。見たものを的確に表現する描く力と、モチーフをどう組み合わせるかという見る力を、このデッサンの試験で観られているのだと気づきました。練習を重ねてきたことが自信となり、試験の日も落ち着いて対応することが出来ました。

学びながら専門を決めることができる

富山大学芸術文化学部では、研究室配属まで専門的に学ぶ分野は決まっていません。工芸分野の実習も楽しいと感じました。手間をかけることも好きなので、作っていく過程を楽しみました。工芸やデザインなど、色んなことを経験したうえで、油絵を専攻することにしました。実際に経験して、立体より平面が好きだなと漠然と思ったからです。絵画特有の、全部が思い通りに行くわけではない点が好きで、油のおいも好きでした。

絵を描き続けるために就職

学部を卒業したら、一般企業に就職する予定です。卒業後の進路を考えたときに、フリーで作家になるのはギャブルだと思いました。企業でイラストレーターとして働く道も考えました。しかし、適職診断をやったり、周りの人に相談しながら考えをまとめました。副業が可能でお休みやスケジュール調整がしやすい会社に就職し、制作も続けていくつもりです。考えを深め、制作にも還元していきたいです。



母校の後輩たちへ

自分のやりたいことが漠然としていても、自分を分析して学校を吟味してください。自分に合う場所がきっと見つかります。勉学も自分の好きなことも、手を抜いてはいけません。